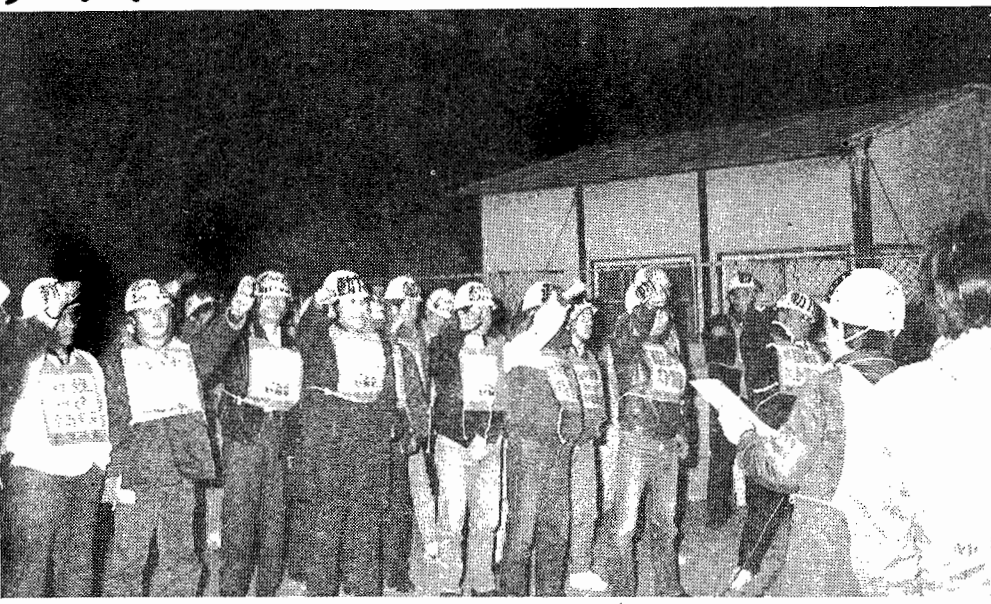


青年部実力で構内集会実現



集会禁圧体制を粉砕して、構内集会をかちとる。（津田沼運転区）

組合事務所使用不許可に怒り爆発！
12・1ダイヤ改阻止へスト体制を強化を！

十一月八日、津田沼運転区構内において、青年部交流会が実力でかちとられた。各支部より結集した八五名の仲間は、当局の現認一弾圧体制と対峙しぬき、堂々と闘いを貫徹した。日頃の怒りをストレートに爆発させた青年部員の声が、寒風をふきとばし夜空にとどろく、一夜であった。

組合事務所に続々と結集

十七時すぎに、青年部運動を牽引する新小岩の仲間が組合事務所に結集した。当局は、コンクにも、動労千葉津田沼支部を脱退した輩をつかって現認をさせてきたものの、我々の怒りの前に、スゴスゴとみじめに退散するだけであった。

十八時すぎ、組合事務所使用禁止攻撃に抗議し、事務所わきで交流会を実力で開始した。永高書記長の力強いシュプレヒコールによって闘いは始まった。三〇名ほどの当局は、敗北感にうちひしがれぼろ然と成り行きを見ているなさをなさである。最初に、受け入れ支部の高田津田沼支部青年部長があいさつにたち「十二月ダイヤ合理化に反対してストライキに起とう」と本日の交流会開催の意義を述べた。つづいて、杉本青年部長が「四・一

体制移行後、一年半にして、我々はついに職場構内において交流会を実力でやりぬくことに成功

した。当局は動労千葉のスト方針に恐れている。本日の闘いをステップにして、鉄道労連を解体し、ストライキで組合要求を貫徹しよう」と基調提起を行った。さらに、本部を代表して水野副委員長は「組合事務所が交流するのは当然の権利だ。当局は『退去通告』をだしてこれを破壊しようとしている。今JRの職場は異常な状態だ。われわれは、これをストライキでもって闘いぬく決意だ。すでに大会でスト権を一〇〇％確立した。青年部の闘いに期待する」と動労千葉の方針を明らかにした。

これらの発言を受けたのち、長期にわたる不当な乗務停止攻撃と闘う津田沼支部浜野支部長が、支部を代表してあいさつした。

各支部青年部長が決意表明

「十・一九上越線事故は他人ごとではない。あの仕業は大宮から引きつぐことになっていった。闘いなくして安全なし」（新小岩斉藤青年部長）「怒りを爆発させて最後まで闘う」（幕張岩立青年部長）「青年部はストライキの先頭にたつ」（銚子渡辺青年部長）「メシも食えない、便所にも行けないほどきつい仕業ダイヤを許せるか」（千葉転高橋副青年部長）「職場抵抗闘争をやりぬく」（木更津佐野青年部長）「この監視している当局がJRを暗くしている」（佐倉前田青年部長）

発言者は口々に怒りとスト決起を訴える。青年部常任委員会を代表して佐藤副青年部長が「ストライキで十二月ダイヤ改を粉砕しよう」と決意表明し、最後に、津田沼選出の関常任が「本日構内で集会をやりぬいた。闘えば勝てる」とキッパリと宣言した。

十一・八津田沼交流会は画期をなす闘いであった。昨年八・五津田沼交流会によって職場から実力反撃の闘いが始まったように、この日の闘いをステップに、運転職場からのストライキ実現にむけて進撃しようではないか！